# シラヒゲウニ放流技術開発（資源増大技術開発事業）概要

島袋新功・長松俊樹*

本課題はシラヒゲウニの1．種苗生産技術開発と2．中間育成技術開発を栽培漁業センター，3．放流技術開発と4．関連調査を水産試験場が分担実施し，平成14年度資源増大技術開発事業報告書　地先型定着性種(暖水域)グループに報告したので，ここでは水産試験場分担分の要旨を報告する。

## 3．放流技術開発

1）放流方法の検討：平成14年10～12月に沖縄県栽培漁業センターで生産した殻径1～2 cmのウニ種苗を3回・計3.4万個をALC標識・染色して今帰仁，宜野座地先で放流した。放流ウニは約1ヶ月後の調査で観察されず，時化で散逸したと考えられた。

2）食害の実態把握：ウニ放流時の3枚刺し網・漁獲魚類の胃内容物からシラヒゲウニは検出されなかった。

## 4．関連調査

1）天然ウニの資源量推定：古宇利島地先のシラヒゲウニの生息量は最も多い場所で0.09個/㎡，前年に多く出現した場所でも0.01個/㎡以下と非常に少なく同漁場の資源量推定ができなかった。また，シラヒゲウニは殆どが殻径6 cm以上の1歳ウニで6 cm以下の0歳ウニが少ないことから，資源量及び漁獲量の減少が懸念された。

2）漁業実態調査：平成14年度の今帰仁漁協のウニ漁期は7月から8月中旬で，その間のシラヒゲウニの生殖巣重量は平均17.5 g/個，総出荷量が815 kgで，漁獲個数は約47千個と推定された。

＊非常勤職員